



No.50 発行日 25.5.10

みどりの風

MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

親の活動・25年

保護者会会長
南部真樹子

あかね園は昭和62年の開園当初から「園生がきちんと仕事出来るようにと厳しく指導をしている所」という評判でした。開所までは計り知れない程のご苦労があり大変だったと思いますが「親達は本当に大変で忙しかったけれども、希望に燃えていた。」という様なお話しを柴田園長からお聞きした事もあります。

暫くの間は親達が順番に園に行き、作業や園内のお掃除等を手伝って園を支えていたそうです。そして、開園に際して法人が多額の借金を抱えていたことや子供達が通う園を何とか軌道に乗せなければという思いもあって、保護者の間から「ボランティアで手芸品を作り、バザーを開催して販売してはどうか」という話が出て、現在の様な手芸品の手作りや外販売等のボランティア活動をする形が出来上がった様です。

また、「友の会」の後援会組織を作って会員を募る事や、コンサートの開催、研修等の活動が今日に至るまで続いています。保護者会も月例会の他に他施設や企業の見学に行き研修を重ねています。



薬円台分場が増設された折には薬円台でも手芸の手作りボランティアをし、現在は本場と京葉測量さんの旧第二作業場の2か所で手作りをしています。園生がサッポロビール工場・緑地作業班がケナフ園で作業をしていた時期には、空いている畑で花や野菜作りにも取組みました。また、バザーは園の一大イベントですが、平成15年度からはバザー実行委員会（保護者会、就労者親の会、友の会、園）として準備を進める事になり、お陰様で地域に根差した盛大な催しになってきました。

開所当時の先輩方が活動の基盤を作って下さいましたので、当時のご苦労に比べれば現在は楽に活動出来るようになってきたのではないのでしょうか。この25年間、親達は試行錯誤しながらも園の動きと連動して活動してきたと思います。

今年度の園生は84名で就労者親の会も120人以上の規模になり、それに伴って園利用者や親のニーズも多様化してきました。その為には、現在の様な素晴らしい職員に定着して頂き、良い環境や仕事の充実、就労の事等々、今迄同様に質の高い支援が望まれます。園の運営も公的助成金だけでは限界があり、まだまだ親の活動による支えが必要です。

親の高齢化や健康不安、様々な家庭の事情等があり、今迄の様に全員参加の活動が難しくなってきましたはいますが、子供達が生きていく上で少しでも生活し易くなるように、親達が皆で考えながら活動していく場になる事を願っています。



あかねホーム3つの型とその流れ

園長 柴田 麻子

大震災から2年。未だ多くの復興への支援が必要とされています。いつどこで何があるか、様々な事を想定して、日頃から備える事の大切さに気付かされる日々です。

さて、あかね園ではこの何年か課題になっているのはグループホームの物件確保です。

厳しい制度の中、場所、広さを含め、多くの条件に合うものを捜すのはとても大変で、ある意味、出会いをする「賭け」のようなものです。

前年度末にまさに奇跡的に駅の近く、8LKの賃貸物件が見つかり、申請のために建築構造、消防法等、クリアできるのかドキドキしながらの2週間でしたが、何とか開所に向け、準備に入る事が出来、ホッとしました。でも良い事ばかりではなく、今回も国、県の基盤整備の補助金は外れ、友の会、保護者会、親の会からの寄付をもらって相変わらず自前の修繕という事になりました。

27年目となり、また制度の変化など、利用者、親の年齢、障害の幅は広がるばかりです。

働く事だけでなく、生活する事の支援のニーズもその分、多様化しています。働くことの支援は流れも型も出来ましたが、これからは生活の流れと型を作っていく必要を感じています。

あかね園は都市部、工業団地の中の通所型施設です。次々に沢山のホームを持つ事は難しいのが現実です。それでも少しでも多くの利用者に使ってもらう為には「あかねらしい」ホームの考え方をしていくしかありません。それは訓練性を持つホーム、通過型ホーム、そして、多目的に使えるホームの3つのコンセプトです。(現在4カ所の



▲あかねホーム実例

ホームに就労者12名、在園者4名) 彼らの自立した生活に少しでも近づける為には家庭の中だけでは何が出来、何が出来ていないのか見えにくいものです(親は知らず知らずの内にやっつけていることが多い)。親から離れて初めて出来ない事に気づくのです。その気づきをなるべく早くすることが出来れば、将来の自立により良く、繋がっていくと思います。

共同生活の中でルールを守り、自分の事は出来る限り自分でする習慣をホームを使ってチェックし、また家庭に戻り、しっかり身につけていき、出来る事が多くなったら次のステップを目指す。これが訓練型のホームです。

次のステップとして、アパート式になったホームを使い、より一人生活のイメージを作り、金銭、健康管理など、より高い生活力を身につけて、近隣の民間アパートに移っていく。幕張西ホームは2年前にその事を考えてつくったホームです。もちろん、移った後も困った時の相談の場としても使ってもらえれば、本人も家族も安心して一步を踏み出せると思います。これが、通過型ホームですが、これには今後、特に国の制度の応援が必要です。家賃補助や相談の場、生活上の支援など法的整備を早急をお願いしたいところです。

3つ目は多目的に使えるホームです。体験や家での生活が難しくなったり、園で働きたいが家が遠く、体力的に5日間通うのが無理な人(11市から通所)また、緊急時の対応、その他、その時々状況に即、対応できるように園の近くにほしいと今、物件を探しています。

▼あかねホーム幕張



～訓練型、通過型、そして、多目的型、各ホームのコンセプトに沿って～

こうした型と流れを作る事で順番に多くの人に使ってもらい、家での生活も、また将来どこで生活するようになって自分なことは自分です、考える、出来ない所だけ支援をしてもらう、本人らしい生活の基本が出来ていく事を願っています。当然、色々な状況があるでしょうし、これで十分なわけではありませんが、少なくとも本人らしい生き方の手助けになれば、と思います。

しかし、この3つの型のコンセプトでホーム運営をしていくためには課題も沢山あります。生活上のものや自立していくためのしっかりしたチェックリストを作る事。現在、世話人を各ホームに配置していますが、世話人だけでは難しい事が多く、正職一人を専門に付けていますが、各ホームの機能を助け、就労者と在園者の違ったニーズに応え、園とのつなぎ役をしていくためには、もう一名専任職員が必要ですが、その人件費は別途施設持ちになっています。

彼らが地域で暮らしていく為には働く支援と生活支援が両輪として、バランス良く機能することが大切ですし、また、これらは視点も動きも違います。職員の専門性も含め、高い支援の質が問われ、その人材を育てていく事も課題です。

福祉の状況が変わる時代、施設側も受ける地域も、そして、本人、家族の意識も（誰かがやってくれるのではなく）変わっていかねばなりません。国にはぜひ、現場の状況を把握の上で、誰もが安心して地域で暮らせる制度が出来ることが待たれます。

あかね園はまたまた、制度にないことを始める事になりますが、親たちが作った法人として、利用者、家族にとって良い事はこれからもやり続けていきます。それが親達の熱心で長い活動に答えることになると思います、がんばっていきます。

▼あかねホーム幕張西



太巻き祭り寿司体験を終えて

自立訓練事業 支援員 吉田 梨絵

平成25年2月21日に千葉郷土料理研究会の方々(11名)にお越しいただき、太巻き祭り寿司



作り体験を行いました。当日は、自立訓練班を中心とした園生13名と保護者9名が参加し、皆でかたつむりの太巻きに挑戦。料理経験の少ない利用者さんにとっては、丁寧なご指導のもと料理を作る楽しさや大変さを学び、同時に、苦労した分、完成した時の喜びはとて大きなものとなりました。また、自分で作った巻き寿司を皆で食べた時には、いつも以上に美味しくいただけることを、今回の体験を通じて感じる事ができたと思います。昼食時には、全園生・職員もいただき、皆から「美味しかったです。」「御馳走様でした。」という言葉が言われた時の嬉しそうな笑顔がとても印象的でした。また、研究会の皆様には、朝早くから準備をしていただき、本当にありがとうございました。



「友の会」平成24年度決算報告と25年度事業計画



平成24年度「友の会」の運営は皆様のご支援をいただき健全に行われ、「友の会」の役割を果たせたことをここにご報告いたします。

1年半ごとの「友の会」コンサートは24回となり、12月に船橋市民文化ホールで開催しました。規模を縮小しましたが、おなじみになりましたニューフィル千葉とソプラノの嶋崎裕美さんを迎え、成功裡に終わり、収益をあげることができました。

本年度は今号によりご報告のとおり、グループホーム新設のための補助金として、あかね園に200万円、法人へは300万円の寄付をすることができました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

決算につきましては、4月9日鈴木悦子さんと山崎順子さんの監査を受け、適正と認められました。

本年度は26年度のコンサート開催の準備と、恒例となりました研修会の充実を計って参ります。

本年度も変わらぬ皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	4,438,966	事務費	608,645
会員会費	4,643,000	研修費	24,073
(個人386名、法人25件)		コンサート	689,801
コンサート	1,507,120	法人への寄付	5,000,000
寄付金等	21,000	次年度繰越金	4,289,763
預金金利	2,196		
合計	10,612,282	合計	10,612,282

25年度事業計画

5～6月	会員増強月間
5月10日	みどりの風50号発行
10月6日	あかね園バザー
12月5日	みどりの風51号発行
26年2月	「友の会」研修会



「友の会」へのご入会をお願いいたします。

一般会員（年間一口 3,000円） 法人会員（年間一口 10,000円）

郵便振込 00110-0-354445 銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251

入会申込み、問合せは事務局まで Tel 047-452-2715 Fax 047-452-2693



園日誌より



自立訓練事業 支援員 白井 菜美子

年度の移り目の季節になると自立訓練事業では先輩から後輩へとそれぞれの係が引き継がれます。初めての仕事を覚えるのに緊張気味の利用者、また教える先輩利用者も伝える難しさを感じながら奮闘している様子が見られます。毎朝倉庫の鍵を開ける係、ラジオ体操リーダー、企業にFAXを送る係など様々ですが、みんなと一緒に取り組む仕事とは違い自分の役割を持ち“任される”事で日にちや時間を意識して忘れずに行なわなければならないという責任感が生まれるのか、その姿には頼もしさを感じます。

また、毎日の作業では新しい仕事や短期の仕事に追われ忙しい中でも利用者の顔は“仕事をやり遂げた”という達成感に溢れた表情をしています。そんな責任感や忙しい作業の中で感じる達成感などを通して、日々成長していく利用者と共に私自身も勉強の毎日です。

新年度を迎え新しい仲間が加わる事でどんな風に変わり成長していくのか、とても楽しみでありその大切な時期に携わる事に気が引き締まる思いです。気持ちを新たにこれからも努力を続けていきたいと思えます。

編集後記

初めて、「みどりの風」の担当になり、ハラハラドキドキの新年度のスタートでした。この作業が、いつか、ワクワクの楽しみになる日がくるように、頑張っています。よろしくお祈りします。（A）

編集人 あひるの会友の会代表 国松実枝子
発行所 社会福祉法人 あひるの会「友の会」
〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号